

公立大学法人札幌市立大学
平成25事業年度の業務実績に関する評価結果

平成26年8月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学の年度評価の方法

- (1) 年度評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、各事業年度における中期計画（年度計画）の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の確認又は評価を行う。
 - ① 大学の教育研究の質の向上
 - ② 地域貢献、国際化、大学間連携
 - ③ 業務運営の改善及び効率化
 - ④ 財務内容の改善
 - ⑤ 自己点検・評価
 - ⑥ その他業務運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、公立大学法人から提出された業務実績報告書等を検証し、年度計画の記載項目ごとの事業の進捗状況について、次に掲げるⅠ～Ⅳの4段階で評価を行う。公立大学法人による評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を示す。

Ⅳ：年度計画を上回って実施している。

Ⅲ：年度計画を十分に実施している。

Ⅱ：年度計画を十分には実施していない。

Ⅰ：年度計画を実施していない。
- (4) (3)の結果等を踏まえ、年度計画の大項目ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。

なお、評価に当たっては、事前に設定した重点的に評価する小項目の実施状況を勘案した評価を行うことができる。

S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）

A：計画どおり進捗している（すべてⅣ又はⅢ）

B：おおむね計画どおり進捗している（Ⅳ又はⅢの割合が9割以上）

C：やや遅れている（Ⅳ又はⅢの割合が9割未満）

D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、項目別評価の結果等を踏まえ、中期計画（年度計画）の進捗状況全体について、総合的に評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成18年4月に開学した公立大学法人札幌市立大学は、平成21年度に学部が完成し、平成22年4月には、デザイン研究科と看護学研究科の大学院博士前期課程、平成24年4月には大学院博士後期課程を設置するなど、間断なく大学を発展させている。開学時より、デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を常に基本として高度な教育研究を行っており、デザイン分野と看護分野における有為な人材の育成・輩出に取り組む地域に根ざした公立大学として、一層の地域貢献が期待されている。

平成25事業年度の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、全ての項目でA評価（計画どおり進捗している）となっており、年度計画の小項目ごとの評価からも、全体としては、行うべき事業を行い、順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学が策定した平成25年度の年度計画の記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、小項目数60項目のうち、3項目がIV評価（年度計画を上回って実施している）、57項目がIII評価（年度計画を十分に実施している）となっており、全ての項目が年度計画実施の水準を満たしている。

また、毎年度の詳細な年度計画や自己評価とともに、これらに対する評価委員会の評価等を踏まえ、大学業務全般にわたって様々な取り組みを推進していることが、平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告書（以下「報告書という」）からもうかがえた。

(2) 年度計画の大項目ごとの評価の主要なポイント

ア 大学の教育研究等の質の向上

平成27年度のアドミッションポリシー見直し、平成28年度の新カリキュラム導入に向けて、着実に準備が進んでいると評価できる。今後はこれらを緊密に連関させて検討することを期待する。

キャリアガイダンスは、学生からの要望を踏まえて活発に展開している。今後は、1年次から4年次までのキャリアガイダンスのプロセスを明確化するとともに、キャリア支援の意義を徹底し、受講者のさらなる増加に向けた取り組みが求められる。

また、デザイン分野と看護分野、大学と外部機関が連携した分野横断的な教育研究に積極的に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。今後は、教員への負担が過大とならないように、教員数の充実にも配慮しながら、大型プロジェクトの獲得を通じて分野横断的教育研究を促進し、ウェルネスをテーマとした共同研究をさらに展開し、市内のデザイン・看護関係者も巻き込んだ取り組みに広げることを期待する。

イ 地域貢献、国際化、大学間連携

COC事業、産業界とのネットワークづくり、海外提携校との交流、公開講座など幅広い分野で精力的に取り組みを推進しており、高く評価できる。

今後、公開講座については、市民ニーズを踏まえた演題を企画するなど、より一層の充実が求められる。また「北方圏」「積雪寒冷地」などをキーワードにした国際的なネットワークづくり、共同研究や留学生の国際交流を契機とした海外提携校の増加などを期待する。

ウ 業務運営の改善及び効率化

第二期経営戦略に基づき、理事長の補佐体制の強化を図るために経営会議を設置するとともに、教育研究企画会議及び学外連携企画会議を新設し、学内の諸問題に対応していることは評価できる。

また、経営戦略を推進するための実行プログラム、広報戦略及び行動計画を計画的に策定している。今後は全学が一丸となって、これらに沿った取組を着実に推進することが求められる。

事務の効率化・合理化に向けては、業務の進め方について全学で検討するなど、超過勤務時間の縮減に向けたさらなる取り組みが求められる。

エ 財務内容の改善

外部資金の獲得に向けて、科学研究費補助金の申請率の改善が図られていることは評価できる。今後は、申請率の向上とともに、申請支援策の強化による採択率の向上も期待する。

また、基幹ネットワークシステムの更新に当たっては、管理費用の抑制とともに、学生支援サービスの拡充が図られることを期待する。

オ 自己点検・評価

マネジメントサイクルによる自己点検・評価について、半期（一部四半期）ごとに、年度計画の進捗管理を行うなど、適切に取り組まれている。

カ その他業務運営

キャンパスの活用長期計画策定に向けては、アンケート等の実施により、教員・学生の両視点を取り入れた長期計画の骨子が策定されることを期待する。

また、キャンパスハラスメントについては、学内の相談窓口として、電話番号以外の手段の掲載、外部の公共団体（弁護士会等）の相談窓口の掲載など、より相談しやすい方法が示されることを期待する。

(3) 今後の課題

- ・ 授業評価アンケートの見直しに際して実施した教員対象のアンケート調査回答者は、全教員の4割以下となっている。今後、授業内容・授業方法の改善に向けて、教員一丸となって取り組む姿勢が求められる。（小項目14）
- ・ いくつかの小項目（小項目8、15など）で、実績に見合わない成果指標が散見されることから、指標の見直しを含めた検討が必要と思われる。

3 項目別評価

3-1 大学の教育研究等の質の向上に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されたことから、A評価 (計画どおり進捗している) とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
27	0	0	26	1	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ デザイン分野と看護分野、大学と外部機関が連携した分野横断的な研究に積極的に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。今後も大型プロジェクトの獲得を通じて、さらなる分野横断的研究を促進することに期待する。(小項目21)

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 平成27年度のアドミッションポリシー見直しと、平成28年度の新カリキュラム導入に向けて、着実に準備が進んでいると評価できる。今後は集中的な検討が必要と思われる。

近年、ディプロマポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーの明示とともに、各教育科目の目標とカリキュラムポリシーの整合性を点検し、カリキュラムマップを作成すること等も推奨されていることから、この両項目を緊密に関連させて検討することを期待する。(小項目2、5、6、7)

- ・ オープンキャンパスの参加者数は、3年連続で成果指標を大幅に超えていることから、成果指標を前年度比〇%増などに改めることも考えられる。

また、参加人数のほか参加者の構成も把握する必要があると思われる。(小項目8)

- ・ 履修登録単位数の上限の見直しによる単位の実質化は、一定の効果を上げていると評価できる。今後、授業外の学習時間の確保、学生による生活時間全体の自己管理の指導など、より大きな視野の取り組みに発展することを期待する。(小項目10)
- ・ 入学者アンケート、授業評価アンケートに加えて、学部連携科目に関する「個人活動評価票」、卒業時の学生アンケート、卒業生に対する追跡調査などの重層的な取り組みが始まっていることは高く評価できる。

これらを体系化し、優れた教育評価・検証システムを構築することを期待する。今後、学生アンケートに基づいた評価と伝統的な成績評価の結果(GPA)との相関関係の検証を期待する。また、教育評価を効率的に行うために、先進的なデータ分析手法の調査を期待する。

一方で、授業評価アンケートの見直しに際して実施した教員対象のアンケート調査回答者は、全教員の4割以下となっている。今後、授業内容・授業方法の改善に向けて、教員一丸となって取り組む姿勢が求められる。(小項目12、13、14)

- ・ FD研修会を活発に実施し、FDを対象や内容で分類したFDマップを作成したことは評価できる。超過勤務の縮減に関するSD研修会など、当面の課題に即したテーマ設定も適切であると思われる。

一方で「FD研修会開催：7回以上」という成果指標はこの実状に見合っていないので、指標の見直しも必要と思われる。(小項目15)

- ・ 文科省の補助事業「産業界ニーズ事業」は体系的かつ精力的に展開されており評価できる。キャリア支援にかかるコンソーシアム構築は、27年度を目標としていることから、今後、取組内容をより具体化していく必要がある。(小項目16)
- ・ キャリアガイダンスは、学生からの要望を踏まえて活発に展開されており評価できる。今後は、1年次からのキャリアガイダンスのプロセスを明確化していく必要がある。(小項目17)
- ・ デザイン分野と看護分野が連携研究に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。今後、ウェルネスをテーマとした共同研究のさらなる展開、市内のデザイン関係者や看護関係者も巻き込んだ取り組みに広がることを期待する。(小項目20)
- ・ 研究成果に対する発表支援策は評価できる。新たな補助制度として、科学研究費補助金の申請に向けた萌芽段階における研究支援策も考えられる。(小項目22)
- ・ 研修生を受け入れる際の手続き(研修生規則)が定められており評価できる。
また、学外共同研究者として、退職高齢者の豊富な経験や実績は、中期計画に掲げた研究内容を飛躍的に促進し、大学の大きな特色になる可能性を秘めていると考えられる。(小項目23)
- ・ サテライトキャンパスについては、稼働率の向上に向けた今後の機能充実策に期待する。成果指標の達成状況に対して自己評価を加えてほしい。(小項目26、27)

3-2 地域貢献、国際化、大学間連携に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されたことから、A評価 (計画どおり進捗している) とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
9	0	0	8	1	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ COC事業が順調に実施されたことにより、地域の核となる大学づくり、デザインと看護の連携が進み、将来的な大学間ネットワーク形成の展望が開けたことは、きわめて高く評価できる。今後の展開に大いに期待する。(小項目36)

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 学内の地域貢献に関わる情報の集約と発信は、活発かつ適切に行われていると評価できる。今後は、内容を類型化して整理するなど、分かりやすく発信することを期待する。(小項目28)
- ・ 産業界とのネットワークづくり、活動事例集・研究成果報告集の発行、産学連携相談窓口の開設など、着実に実施されており評価できる。ネットワークの拡大を視野に入れるのであれば、研究内容を類型化するなど、刊行物の体裁を再検討する必要がある。(小項目29)
- ・ 専門職業人支援講座等を含めて、各種公開講座を精力的に開講しており評価できる。アンケートにおける受講者満足度が4.47という評価は、賞讃に値する。今後は、市民ニーズを踏まえた演題を企画するなど、公開講座のより一層の充実が望まれる。(小項目30、31、32)

- ・ 「国際化に関する基本方針」及び「行動計画」を経営会議で決定し、グローバルな視点に立った教育・研究を推進するための基盤を整備したことは、高く評価できる。今後は、平成28年度の新カリキュラム（実践英語、国際事情を学ぶ新共通教育科目など）導入に向けて着実に検討を進めることを期待する。

また「北方圏」「積雪寒冷地」をキーワードにした国際的なネットワークづくりの推進も期待する。さらに、サバティカル制度を活用したネットワーク構築も一つの方策として助言したい。（小項目33）

- ・ 海外提携校を中心とした共同研究の実施を通じた交流、教員や学生の受け入れ等の取り組みが成果を上げていることは評価できる。今後、共同研究や留学生の国際交流を契機として、海外提携校が増えていくことを期待する。（小項目34、35）

3-3 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において「年度計画を上回って実施している (IV評価)」又は「年度計画を十分に実施している (III評価)」と評価されたことから、A評価 (計画どおり進捗している) とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 実施せず	II 十分実施せず	III 十分実施	IV 上回って実施	
8	0	0	7	1	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目として、次のものが挙げられる。

- ・ 超過勤務時間の削減を通じて業務運営の改善及び効率化が図られている。今後は業務の進め方についても全学で検討するなど、より一層、業務の効率化に努めていくことを期待する。(小項目43)

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 計画通り、新たに設置した企画会議において、経営戦略の実行プログラムが策定されている。今後は、策定した実行プログラムに基づき、第二期経営戦略の着実な推進を期待する。(小項目37)
- ・ 計画通り、広報戦略及び実行計画が策定されており評価できる。今後は、関係する学内委員会や組織、広報室が密接に連携しながら、全学が一丸となって広報活動を展開することを期待する。(小項目44)

3-4 財務内容の改善に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
4	0	0	4	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 外部資金の獲得に向けて、科学研究費補助金の申請率の改善が図られていることは評価できる。今後は、申請率の向上とともに、申請支援策の強化による採択率の向上も期待する。(小項目46)
- ・ 自主財源の充実に向けては、基金の設置とともに、継続的な資金獲得が可能となる寄付金・基金の募集方法等の検討も必要と考える。(小項目47)
- ・ 基幹ネットワークシステムの更新に当たっては、管理費用の抑制とともに、学生支援サービスの拡充が図られることを期待する。(小項目48)

3-5 自己点検・評価に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
3	0	0	3	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

特になし

3-6 その他業務運営に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「年度計画を十分に実施している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分実施	Ⅳ 上回って実施	
9	0	0	9	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

年度計画を上回って実施している項目はない。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ キャンパスの活用長期計画策定に向けては、キャンパスの活用等に関するプラン骨子(案)を示したアンケート等の実施により、教員・学生の両視点を取り入れた、プラン骨子が策定されることを期待する。(小項目56)
- ・ 学内のキャンパスハラスメント相談窓口として、電話番号以外の手段の掲載、外部の公共団体(弁護士会等)の相談窓口の掲載など、より相談しやすい方法が示されることを期待する。(小項目58)